

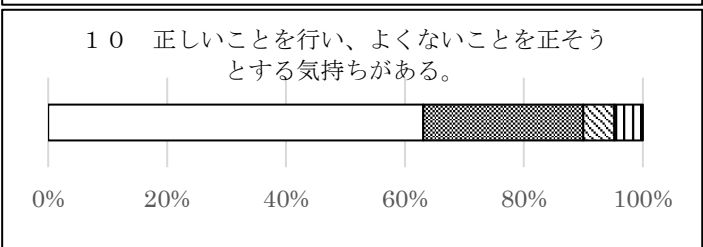
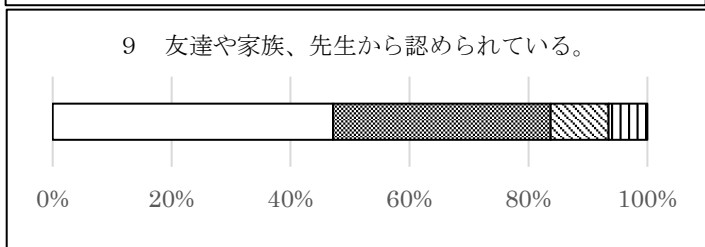
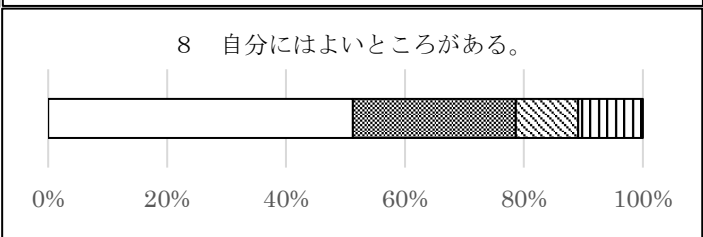
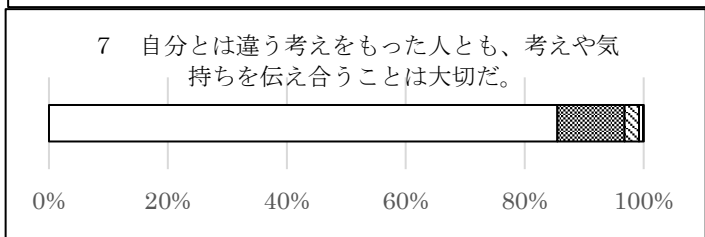
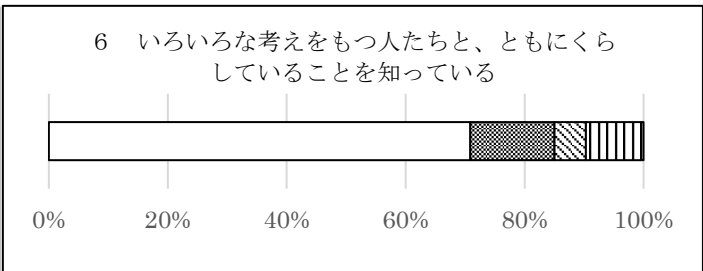
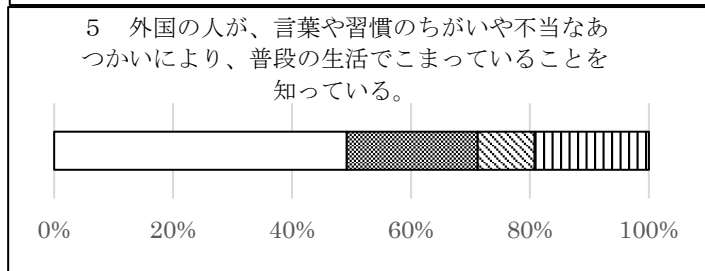
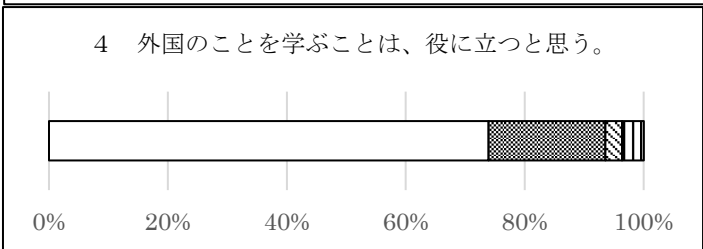
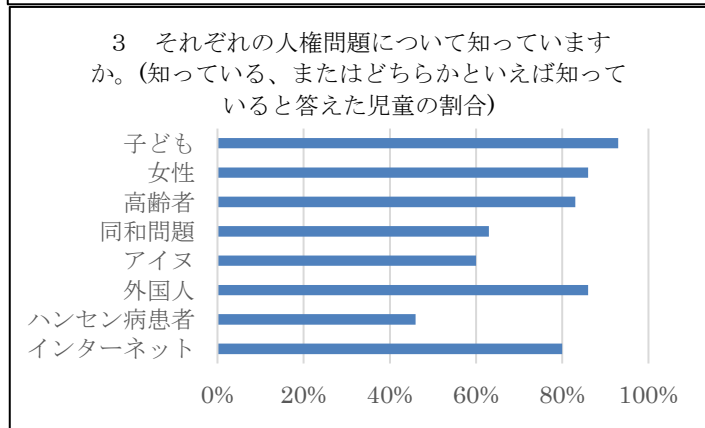
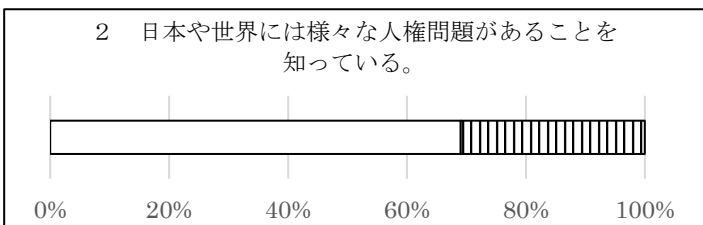
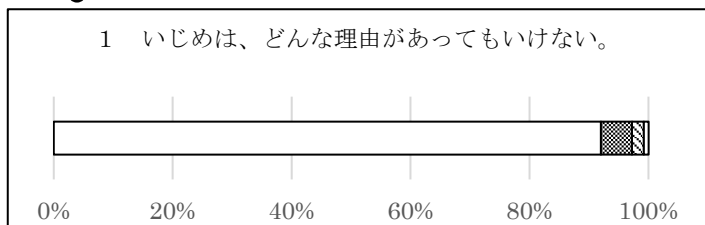


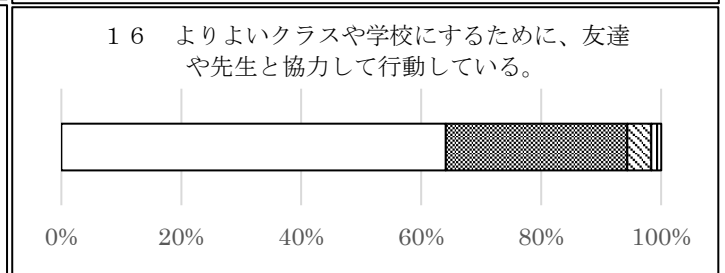
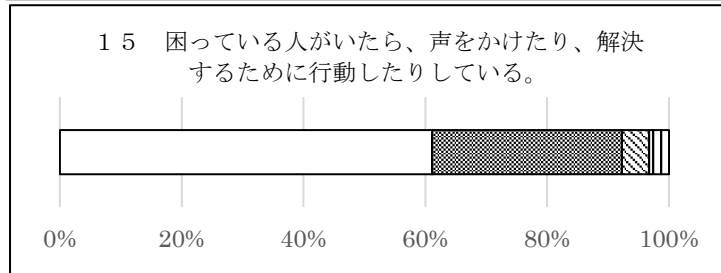
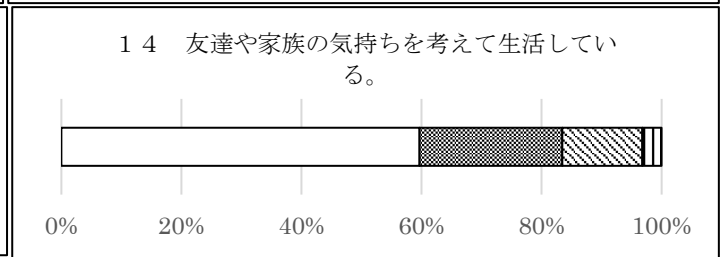
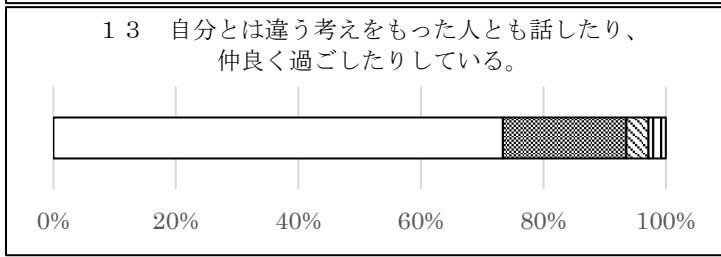
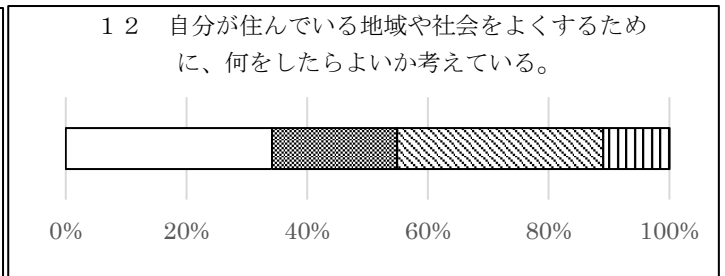
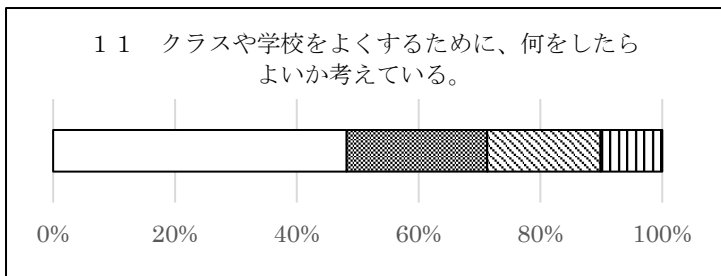
本校は、令和4年度と5年度、文部科学省から「人権教育に関する研究校」としての指定を受けています。今年度は、研究主題を「豊かな人間性や自尊感情を育成する人権教育～互いの違いやよさを認め合い、相手の気持ちを考えて行動できる児童の育成～」に設定し、児童、教職員、そして保護者の皆様とともに、人権に関する意識を高め、よりよい児童の育成、より過ごしやすい学校・家庭・地域づくりにつなげていくために様々な取組をしています。

その一環として人権教育に関する本校の活動を伝えるための人権だよりを発行しています。今年度の第1号では、5月に実施した人権に関する児童のアンケート結果を中心にお伝えします。

人権アンケート結果

- そう思う
- ▨ どちらかといえばそう思う
- ▩ どちらかといえばそう思わない
- そう思わない





【アンケート結果の考察】

①肯定的な回答の割合が多い項目

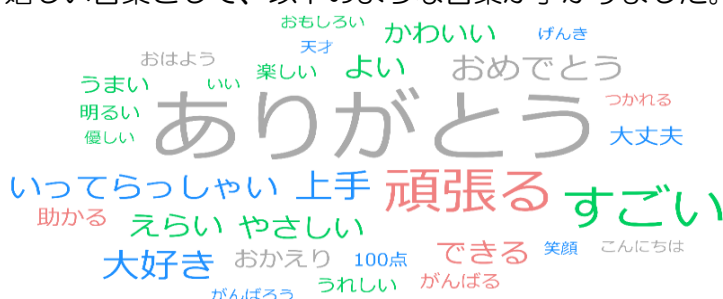
設問1「いじめは、どんな理由があってもいけない。」では、約9割を超える児童がいじめはいけないと答えています。また全員がいけないとは答えていません。全児童がいじめはいけないものであると考えられるように指導していきたいと思います。設問6「いろいろな考えをもつ人たちと、ともにくらしていることを知っている。」設問7「自分とは違う考えをもった人とも、考えや気持ちを伝え合うことは大切だ。」設問13「自分とは、違う考えをもった人とも話したり、仲良くしたりしている。」の項目への肯定的な回答の割合が高いことから、お互いを認め合いながら生活することができることや、違いを受け入れようとする意識が高まってきていることが分かります。

②肯定的な回答の割合が少ない項目

一方で、設問3(4)「同和問題に関わる人権問題があることを知っている。」設問3(5)「アイヌの人々に関わる人権問題があることを知っている。」などの項目においては、他の項目に比べて知らないと回答した児童の割合が高いことが分かります。学年や発達段階に応じた学習が必要ではないかと推測されます。

～人権ミニアンケートより～

子どもたちには、上記アンケートに加え、「あなたのよいところを教えてください」「友達・先生・家族から言われてうれしいことを教えてください」という内容について答えてもらいました。その中で、「あなたのよいところを教えてください」という質問に対して、「何もない」と答えた児童が数名いました。子どもは、自分を受け入れることで自信をもつことができ、物事にも積極的に取り組むことができるようになります。学校では「自己肯定感」を高めることに力を入れているところです。ご家庭でも温かい言葉を毎日伝えてみてはいかがでしょうか。温かい言葉を伝えると、子どもは嬉しい気持ちになれるのではないかと思います。例えば、「いつもありがとう」「あなたがいてくれて本当に幸せ」など…。子どもたちが家族に言われて嬉しい言葉として、以下のような言葉が挙がりました。



文字が大きい言葉が、うれしいと答えた児童が多い言葉です。